

中津地区①

洪水ハザードマップ

このマップで次のようなことを確認してください

- 避難場所までの経路
- 自宅周辺の被害想定
- 情報の入手先
- 非常持ち出し品・備蓄品の準備

災害に対しては日頃からの備えが重要です。“自らの安全は自らが守る”ための行動や対応をとることが被害を少なくすることに繋がります。「中津市 洪水ハザードマップ」は、住民のみなさんに防災に関する情報を提供し、事前の備えに役立てていただくことを目的に作成しました。



●わが家の防災メモ

わが家の避難場所

家族が離ればなれになったときの集合場所

〈発行〉中津市役所 上下水道部 排水対策課 TEL 0979-62-9054

情報の入手先

中津市では複数の手段を使って災害時に緊急情報を伝達します。日頃から確認しておきましょう。

告知放送・防災無線 MCA

緊急情報を、屋外に設置したスピーカーを使って放送します。防災行政無線の音が聞こえたら、身を守る行動をとり、テレビやラジオをつけて情報を収集してください。

なかつ防災アプリ JC-Smart

気象庁からの気象警報・注意報、市からの緊急の避難情報・全国瞬時警報システム)からの緊急情報などをお知らせするアプリです。



なかつメール LINE 友だち追加で登録

「なかつメール」は、市からの防災情報や防犯・イベント情報などを、メールとLINEで配信しています。ご利用には事前の登録が必要です。登録用メールアドレス(t-nakatsu-city@sg-p.jp)に空メールを送信もしくはQRコードからLINEで友だち追加をして登録してください。

テレビ

テレビからは、ニュースやテロップに加えデジタル放送(リモコンのdボタン)で防災に関する様々な情報が確認できます。

いざというときの連絡先 消防▶119 警察▶110 海上保安庁▶118

名 称	電話番号	名 称	電話番号

災害用伝言ダイヤル

災害用伝言ダイヤルは、電話を用いて安否情報(伝言)の録音・再生を行うことができます。



携帯電話やスマートフォンでは、「災害用伝言板」があります。登録方法を事前に確認しておきましょう。

市内の要配慮者利用施設は、下記の中津市地域防災計画(資料編)から確認することができます。

<https://nakatsu-bosai.jp/doc/中津市地域防災計画/>

市の公表している

他のハザードマップもご覧ください

- 市では他のハザードマップを公表しています。
- このマップと合わせて活用し、災害に関する知識を深めましょう。

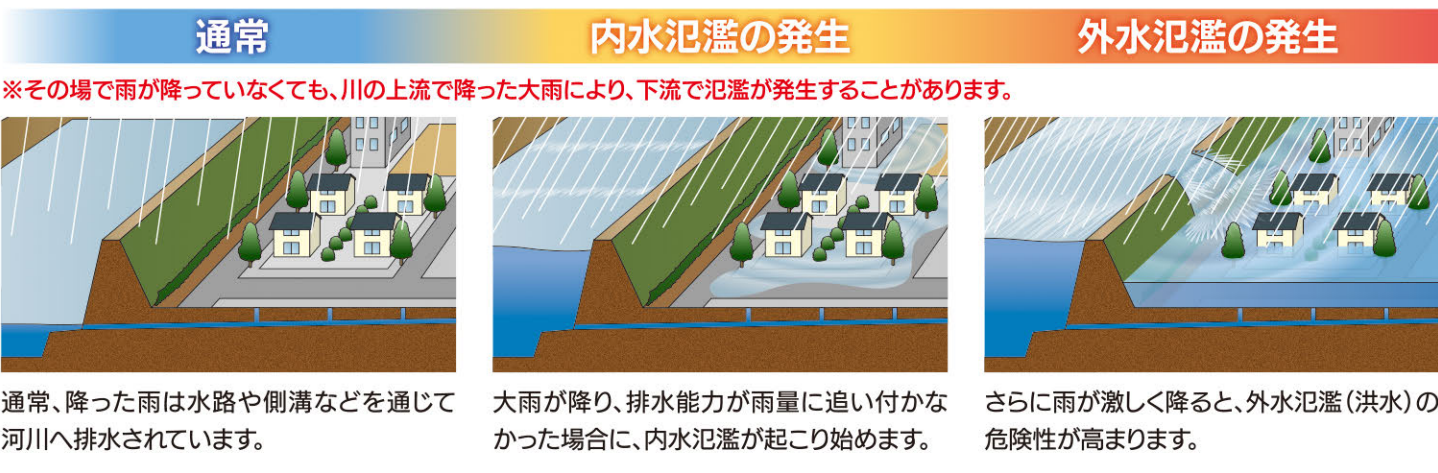
▶中津市防災マップ(WEB版)

<https://nakatsu-bosai.jp/hazardmap/>

風水害のしくみ

内水氾濫と外水氾濫

洪水には、降った雨が水路や側溝などで排水しきれなくなることにより起こる氾濫(内水氾濫)と、川の堤防が壊れたり、水が溢れたりして発生する氾濫(外水氾濫)があります。まずは、洪水の発生するしくみを理解して、避難所などで安全に避難できるよう経路を確認しておきましょう。

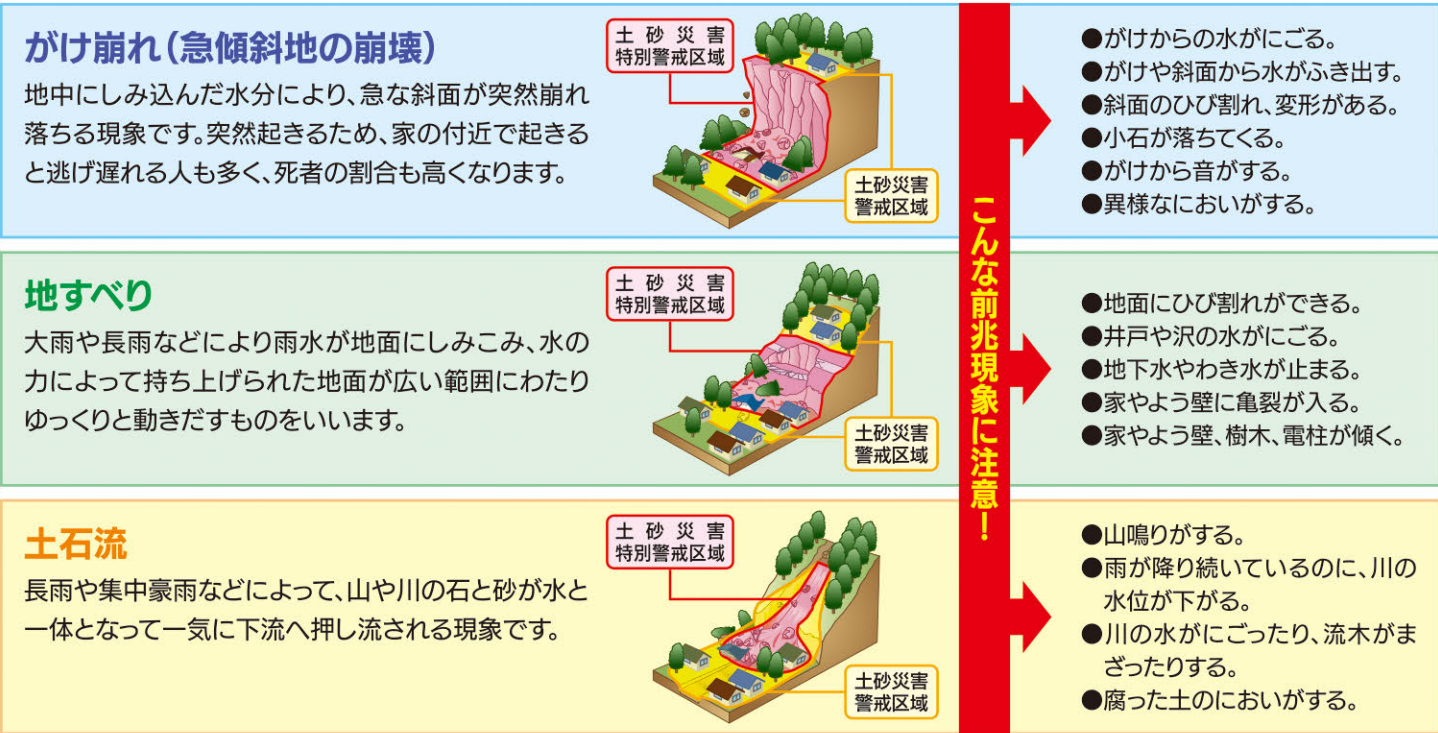


中小河川の洪水

中小河川は、大河川に比べて流域面積が小さく、雨が降ると短時間で急激に水位が上昇します。特に集中豪雨の際は、数十分で氾濫に至ることもあり、避難の時間が限られます。住宅地に近接していることが多いため、人や物の被害が大きくなりやすく、早めの避難行動が重要です。

土砂災害の種類と前兆現象

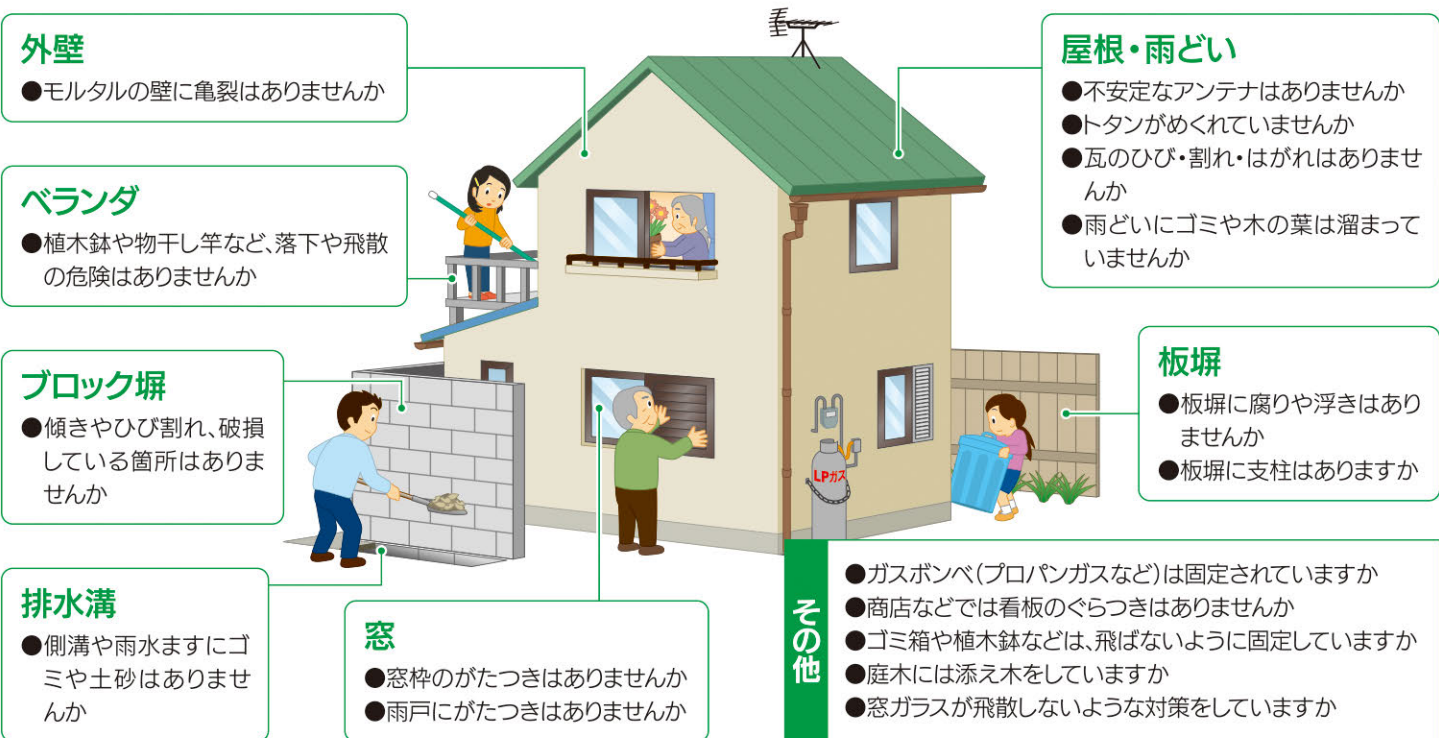
大雨や台風、地震が起きたときには、地盤がゆるみ、がけ崩れや土石流、地すべりといった土砂災害を引き起こす可能性があります。土砂災害が発生した場合に、住民等の生命または身体に危害が生じるおそれがある区域を「土砂災害警戒区域」といいます。また、土砂災害が発生した場合に、建築物に損壊が生じ、住民等の生命または身体に著しい危害が生じるおそれがある区域を「土砂災害特別警戒区域」といいます。



風水害に備える

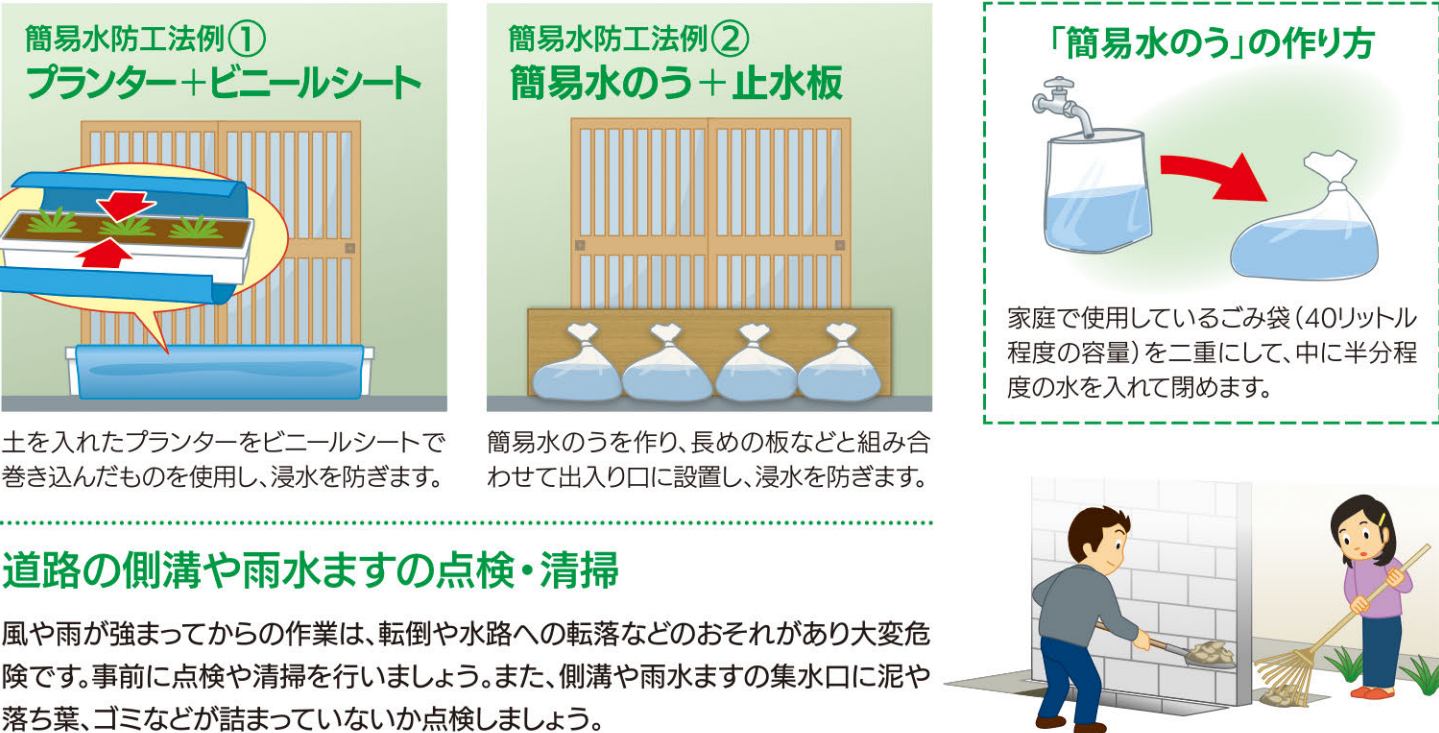
家屋の被害を抑える

風水害による家屋の被害を抑えるために、日頃から家の周りの点検や整備を行いましょう。



家庭でできる簡易防水

浸水が浅い場合には、土のう(ない場合は水のう)を設置することで、水が建物へ浸入することを防げます。簡易的な措置として、植栽用プランターや石油用ポリタンク、長めの板(はしごやテーブルでも可)などを、ビニールシートで包んで設置してもよいでしょう。道路よりも建物が低い場合や、地下室がある場合などは、止水板を設置しておく、より効果的です。



非常持ち出し品について

いざというときには、ただちに避難しなければなりません。そのようなときに備えて、非常持ち出し品を常備しておきましょう。両手が自由に使えるようにリュックサックなどにまとめて、いつでも持ち出せる場所に保管しましょう。

食品・水	救急医薬品	貴重品
☐ 飲料水 ☐ 乾パン・レトルト食品・缶詰など 保存性のある食品類	☐ 救急医薬品 ●ばんそうこう●傷薬●包帯 など ☐ 常備薬 ●かぜ薬●胃腸薬●解熱剤 など ☐ 衛生用品 ●マスク●体温計●消毒液●石けん	☐ 現金(小銭) ☐ 預貯金通帳・印鑑 ☐ マイナンバーカード ☐ 免許証 ☐ 年金手帳 ☐ お薬手帳 ☐ クレジットカード類 ☐ 権利証書
応急活動用品	衣類など	その他
☐ ボリ袋(ビニール袋)・新聞紙 ☐ ろうそく、ライター ☐ ナイフ、缶切り ☐ ティッシュペーパー ☐ 懐中電灯 ☐ 携帯ラジオ ☐ 携帯電話 ☐ 予備の電池 ☐ 筆記用具	☐ 衣類 ●洋服(厚手の物と薄い物)●下着類 ●タオル ☐ 毛布 ☐ 手袋、革手	☐ ヘルメット(防災ずきん) ☐ 洗面用具 ●歯ブラシ●石けん ☐ ほ乳びん・ミルク ☐ 紙おむつ ☐ 生理用品 ☐ メガネ ☐ 杖(長い棒) ☐ ハザードマップ

備蓄品

災害復旧までの3〜7日間程度を自力で生活できるように準備しておきましょう。被害を受けにくく、非常時でも取り出しやすい場所に保管しておく、と良いでしょう。

食料	燃料・日用品など
☐ 飲料水(1人1日3リットルを目安) ☐ 米(缶詰やレトルトのご飯なども便利) ☐ 缶詰や菓子類 ☐ 粉ミルク、離乳食	☐ カセットコンロ ☐ 予備のガスボンベ ☐ 毛布または寝袋 ☐ フLOORシート ☐ 割り箸 ☐ 衣類 ☐ 新聞紙 ☐ 簡易トイレ ☐ 布製ガムテープ ☐ キッチン用ラップ ☐ なべ

「ローリングストック」を心がけましょう

備蓄食料・飲料水などの保存期限が切れる前に消費し、その分だけ新たに補充して常に一定量の備蓄がある状態を保つことを「ローリングストック」といいます。定期的に古い備蓄品から消費することで無駄を出さず、また、いざというときに期限切れで使えなくなことを防ぎます。



避難のポイント

マイ・タイムラインをつくろう

マイ・タイムラインは、台風接近や大雨が予想される際に自分がとるべき行動を時系列にまとめたものです。余裕をもって安全に避難するためにマイ・タイムラインを作成し、いざというときの自分の行動を確認しておきましょう。

気象・避難情報	あらかじめ確認しておくこと／行動内容
大雨や 台風接近の予報	☐ ハザードマップで自分の住んでいる場所の災害リスクを確認 自宅が ●浸水想定区域内に ☐ ある(浸水深 m) ☐ ない ●土砂災害(特別)警戒区域内に ☐ ある ☐ ない ☐ 避難する場所の確認 ●避難する場所: ●移動時間: 分 ●移動方法: ☐ 避難の際、支援が必要な家族・知人の確認 ●名前: 電話番号: ●名前: 電話番号: ☐ 避難の際、支援してくれる人の確認 ●名前: 電話番号: ●名前: 電話番号: ☐ 非常持ち出し袋を準備 ☐ 非常持ち出し品リストの確認 ☐ 1週間分の常備薬を確保 ☐ テレビの天気予報を確認 ☐ 家族の今後の予定を確認 ☐ 防災情報の取得方法を確認 テレビdボタン ☐ 親類や知人宅への避難を検討 ☐ 携帯電話を充電しておく ☐ 安否確認方法の確認
警戒レベル1 早期注意情報	
警戒レベル2 大雨・洪水・高潮注意報 氾濫注意情報	☐ ハザードマップなど避難行動を確認 ☐ 避難しやすい服装に着替える ☐ 川の水位や雨量(住んでいるところとその上流)をインターネットなどで確認 ☐ 危険な場所にいる高齢者などその他支援者は避難開始 ☐ 避難途中に危険を感じたときは、少しでも安全な場所へ(自宅近くの頑丈な建物の上階部など)
警戒レベル3 高齢者等避難 大雨・洪水警報 高潮注意報 氾濫警戒情報	☐ 危険な場所にいる人は、速やかに全脱避難 ☐ 避難が必要な方はこの時点までに、全員安全な場所に避難完了するよう行動を!
警戒レベル4 避難指示 氾濫危険情報 土砂災害警戒情報 高潮警報、高潮特別警報	
警戒レベル5 緊急安全確保 氾濫発生情報 大雨特別警報 高潮氾濫発生情報	

※1 警戒に切り替える可能性が高い旨に言及されているもの

令和7年9月現在

水平避難と垂直避難 気象情報に注意し、早めの避難を心がけましょう!

災害では**早めの避難**が重要です。ただし、すでに避難経路が浸水しているなど、危険が間近に迫っている状況での無理な避難行動はできるだけ避けなければいけません。そのような場合は、がけや浸水区域から離れる(水平避難)だけでなく、近隣の高い建物や自宅の2階といった高い場所への移動(垂直避難)を行うという判断も必要です。



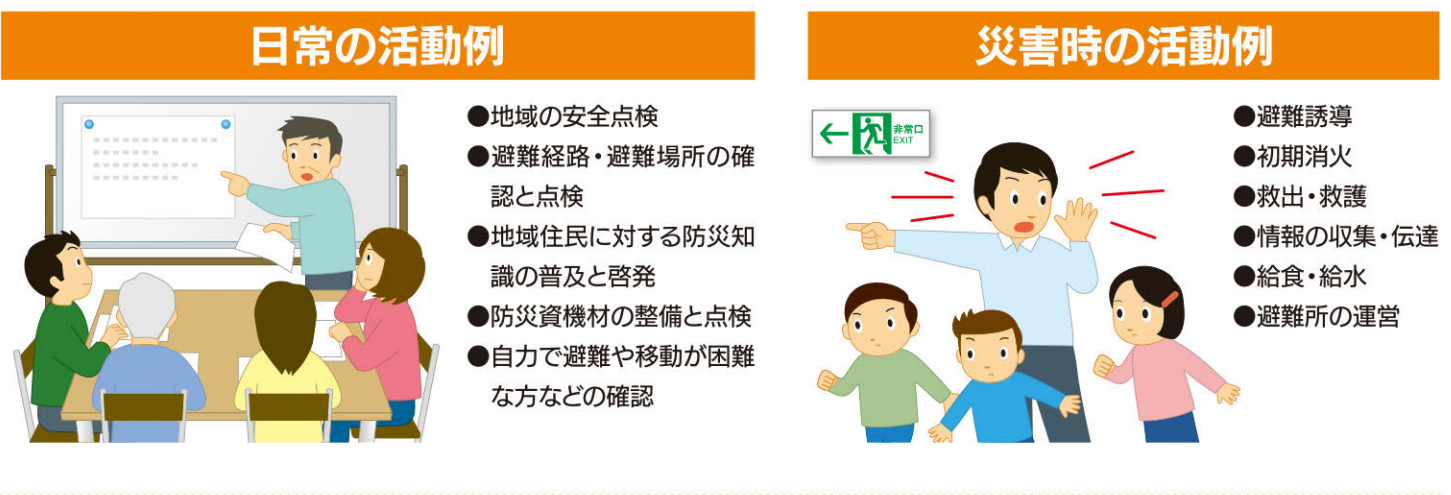
避難のポイント

いざというときのために、日頃から避難に必要なものを整理し、避難の手順について話し合っておきましょう。また、災害の危険性が想定された場合には、情報を入手して、早めの避難を心がけましょう。



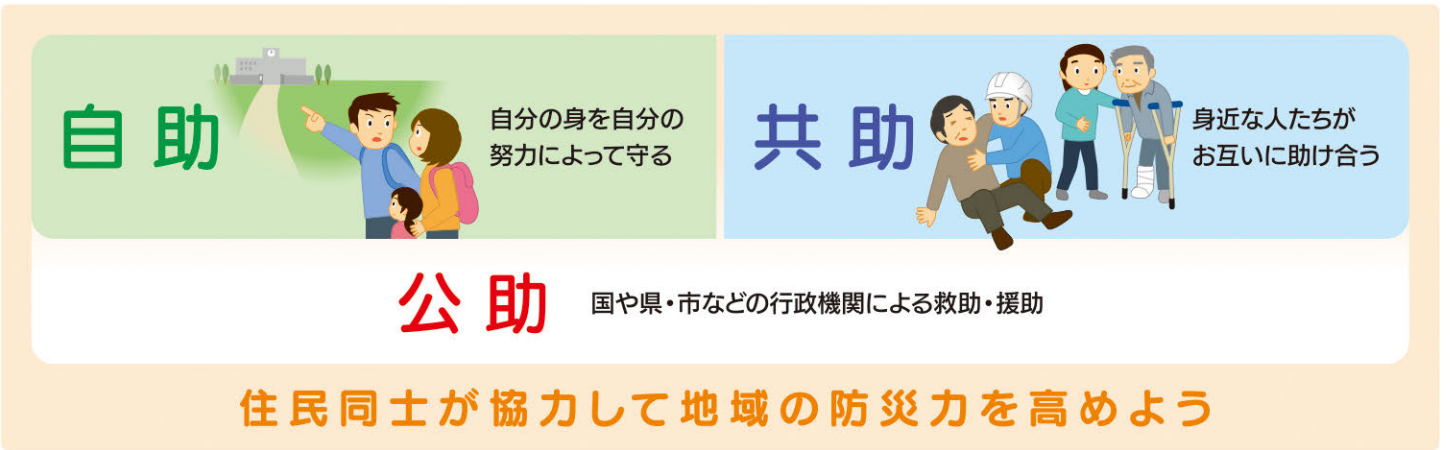
自主防災組織の役割と活動

自主防災組織とは、地域住民が協力・連携し、災害から「自分たちの地域は自分たちで守る」ために活動することを目的に結成する組織のことです。日頃から地域のみなさんと役割分担を決め、万が一の災害発生時に備えましょう。



地域ぐるみで取り組む防災・減災

災害時には警察や消防などが対応しますが、同時多発の火災や道路の損壊があると機能が不十分になるおそれがあります。このような場合には、地域の方々が初期消火などを行うことで、被害を少なくできると考えられます。



防災講習会、防災訓練に参加しましょう

いざというときに落ち着いて的確に行動できるように、日頃から講習会や防災訓練に参加し、防災に関する知識・技術を覚えましょう。市や地域で防災訓練が行われる際には、ぜひ参加しましょう。また、市では住民のみなさんの防災意識向上を目的とした防災出前講座を実施しております。講座に興味がある方は、お気軽にご相談ください。